

J R 東労組バス関東本部 申7号

2018年度年末手当に関する申し入れ 主旨説明を行う!

【組合の主張】

- ◆ 2018年度上半期決算は営業収益の運輸収入が昨年を7,300万円上回り、営業収益合計も75億9,100万円と昨年を6,100万円上回っている。営業収益確保の原動力はまさしくJR東労組組合員である。満額回答を求めていく。
- ◆ 営業費用（動力費、減価償却費、人件費）が増加しているが、将来へ向けた投資と人材確保と育成を目指した人への投資として、これからのバス関東にとって最も重要なことである。
- ◆ 西日本豪雨によるニューブリーズ号代替輸送、山陽本線列車代行は運行を担う東京・中央道・諏訪支店の奮闘はもとより、運行便の持ち換えなど、他職場の組合員の協力もあって成し遂げることができた。
- ◆ 一年中繁忙期状態という要員不足の中、休日出勤や効率化を図るため、ABCDE三ヶ日助勤など最繁忙期輸送に協力し会社に最大限貢献した組合員の努力は計り知れない。
- ◆ 東京営業支店・バスタ新宿では自然災害等による運休時、お客さまへ誠心誠意・丁寧な対応を心がけ、安全第一で取り組んできた。
- ◆ 生活に直結している55歳基本給減額制度・60歳以上継続雇用制度の改善は急務な課題。年末手当への期待も高まっており、モチベーションに反映すべく満額回答を求める。

【会社の主張】

- ◆ 組合員の努力のもとでの利益確保であり、申し入れの主旨は真摯に受け止めた。営業収益については高水準であり、前年並を確保できたことは社員の努力の成果である。
- ◆ 西日本豪雨によるニューブリーズ号代替運行、山陽本線列車代行や成田空港線臨時便等対応に最大限協力いただき無事終了したことに感謝する。
- ◆ 営業利益は昨年の半分に減っていることも事実である。人件費については社員数の増加によるもので、予想通りとなっている。動力費に関しては我々でコントロールできるものではないが、かなりの増となっている。減価償却費に関しては新車投入を積極的に行っているものによる。
- ◆ 増収減益と言うことを踏まえ、業績に連動しながら期待値を込めて真摯に議論していきたい。

**一年中繁忙期状態のなか、安全・安定輸送を担っている
組合員の苦勞に報いるために満額回答を求める!**